



|              |   |
|--------------|---|
| Title        | 貴志雅之教授略歴および研究業績一覧   |
| Author(s)    |   |
| Citation     | 大阪大学英米研究. 2021, 45, p. 17-32  |
| Version Type | VoR   |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/99454">https://hdl.handle.net/11094/99454</a> |
| rights       |   |
| Note         |   |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



貴志雅之教授

# 貴志 雅之 教授

## 略歴および研究業績一覧

### 【略歴】

- |            |   |
|------------|---|
| 1978 年 3 月 | 関西大学文学部独逸文学科卒業（文学士）   |
| 1980 年 5 月 | ノースウェスト・ミズーリ州立大学大学院コミュニケーションズ研究科英文学専攻修士課程修了（Master of Arts） |
| 1981 年 5 月 | ハワイ大学大学院英語教育学科修士課程中退  |
| 1987 年 3 月 | 関西大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程後期課程単位取得退学                             |
| 1987 年 4 月 | 金蘭短期大学英文科専任講師   |
| 1992 年 4 月 | 金蘭短期大学英文科助教授  |
| 1999 年 4 月 | 大阪外国語大学外国語学部地域文化学科アメリカ講座助教授                                 |
| 2003 年 1 月 | 大阪外国語大学外国語学部地域文化学科アメリカ講座教授                                  |
| 2007 年10月  | 大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻教授                                      |
| 2021 年 3 月 | 定年により退職   |

### 【学会役員】

- |            |  |
|------------|--|
| 2000 年 4 月 | 全国アメリカ演劇研究者会議大会準備委員・編集委員（2004 年 3 月まで） |
| 2001 年 4 月 | 日本アメリカ文学会関西支部地区委員（2003 年 3 月まで）        |
| 2003 年 4 月 | 日本アメリカ文学会関西支部評議員（現在まで）                 |
| 2005 年 4 月 | 全国アメリカ演劇研究者会議代表幹事・編集委員（2010 年 3 月まで）   |

|            |                                     |
|------------|-------------------------------------|
| 2005 年 4 月 | 日本アメリカ文学会本部事務局幹事（2009 年 3 月まで）      |
| 2007 年 4 月 | 大阪大学言語社会学会理事（2021 年 3 月まで）          |
| 2007 年 4 月 | 日本アメリカ文学会関西支部編集委員（2008 年 3 月まで）     |
| 2008 年 4 月 | 日本英文学会大学代表（大阪大学外国語学部）（2013 年 3 月まで） |
| 2010 年 4 月 | 日本アメリカ文学会編集委員（2013 年 3 月まで）         |
| 2010 年 8 月 | 日本アメリカ演劇学会編集委員（2015 年 3 月まで）        |
| 2010 年 4 月 | 日本アメリカ文学会関西支部編集委員（2011 年 3 月まで）     |
| 2010 年 8 月 | 日本アメリカ演劇学会会長（現在まで）                  |
| 2013 年 4 月 | 日本英文学会編集委員（2015 年 3 月まで）            |
| 2015 年 4 月 | 日本アメリカ文学会代議員（2016 年 3 月まで）          |
| 2016 年 4 月 | 日本アメリカ文学会編集委員（2020 年 3 月まで）         |
| 2019 年 4 月 | 日本英文学会編集委員会顧問（現在まで）                 |

## 【研究業績等一覧】

### 著書

1. 『英米文学を学ぶよろこび——多田敏男先生古稀記念論文集』共著，大阪教育図書，589 頁，1995 年 5 月。「オニールの『サイクル』——11 劇サイクル初めの 4 作はいかに構想されたか」pp.116-133.
2. 『酔いどれアメリカ文学——アルコール文学文化論』共著，英宝社，340 頁，1999 年 2 月。「ユージーン・オニール」pp.257-322.
3. 『知の諸相——赤井養光・坂本悠貴雄両先生古希記念論文集』共著，大阪教育図書，918 頁，1999 年 3 月。「私的生活の作品化は何をもたらしか——晩年のウィリアムズを考える」pp.247-264.
4. 『冷戦とアメリカ文学——21 世紀からの再検証』共著，世界思想社，405+xvi 頁，2001 年 9 月。「第 10 章 冷戦とアメリカ演劇——五〇年代アメリカ演劇と国家権力の攻防」pp.251-274.

5. 『アメリカ文学とニューオーリンズ』 共著, 鷹書房弓プレス, 254 頁, 2001 年 10 月「テネシー・ウィリアムズ——ゲイ作家と都市の間テクスト性」 pp.159-181.
6. 『ジェンダーとアメリカ文学』 共著, 勁草書房, 267+vii 頁, 2002 年 11 月. 「アフリカ系アメリカ人の人種, ジェンダー, 歴史——オーガスト・ウィルソンの 20 世紀サイクル」 pp.117-159.
7. 『スモールタウン・アメリカ』 共著, 英宝社, 319 頁, 2003 年 8 月. 「もう一つのスモールタウン——日系アメリカ演劇が映し出す『記憶の町』の妻たち」 pp.280-309.
8. 『共和国の振り子——アメリカ文学のダイナミズム』 共編著, 英宝社, 386 頁, 2003 年 8 月. 「グラスペルに見る反逆者／創造者としてのフェミニスト——エクリチュール・フェミニンは可能か」 pp.143-158.
9. 『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』 共著, 世界思想社, 313+18 頁, 2006 年 10 月. 「現代演劇の冒険——テーマ・パークのリンカーン」 pp.184-198.
10. 『神話のスパイラル——アメリカ文学と銃』 共著, 英宝社, 254 頁, 2007 年 3 月. 「帝国支配の記号学——舞台の上の銃と他者」 pp.94-144.
11. 『二〇世紀アメリカ文学のポリティクス』 編著, 世界思想社, 260 頁, 2010 年 6 月. 「序 二〇世紀アメリカ文学のポリティクス」 pp.9-23 ; 「アメリカ演劇, 亡霊の政治学——冷戦・クイア・ポスト冷戦」 pp.117-150 ; 「あとがき」 pp.249-252.
12. 『アメリカン・ロード——光と陰のネットワーク』 共著, 英宝社, 310 頁, 2013 年 11 月. 「帝国化するアメリカ, 反逆する他者——テネシー・ウィリアムズ, SF, 黙示録的政治劇」 pp.5-27.
13. 『災害の物語学』 共著, 世界思想社, 330 頁, 2014 年 5 月. 「天界と人間界, 災害を生き抜く政治学——トニー・クシュナーの『エンジェルズ・イン・アメリカ』」 pp.247-271.
14. 『アメリカ文学における幸福の追求とその行方』 編著, 金星堂, 380 頁,

2018 年 2 月. 「序 アメリカ、幸福の追求とその行方」 pp.1-18 ; 「タブーを犯した成功者——『山羊——シルヴィアってだれ?』における幸福の追求と破壊」 pp.193-212 ; 「あとがき」 pp.371-373

15. 『アメリカ演劇, 劇作家たちのポリティクス——他者との遭遇とその行方』単著, 金星堂, 478 頁, 2020 年 6 月.

#### 学術論文

1. “On the Second Language Learner’s Difficulty in Using Infinitival Modifiers” (単著) 『大阪工業大学紀要人文社会篇』(大阪工業大学一般教育科) 第 28 巻 2 号, pp.21-42. 1984 年 3 月.
2. “Brutus: Ambition and Feelings of Guilt” (単著) 『Poiesis』(関西大学大学院英語英米文学研究会) 第 12 号, pp.95-109. 1985 年 2 月.
3. 「*Mourning Becomes Electra* における生と死——『自己開眼の遷延』をめぐって」(単著) 『Poiesis』(関西大学大学院英語英米文学研究会) 第 14 号, pp.1-16. 1987 年 2 月.
4. “On Mark Twain’s ‘The Mysterious Stranger’” (単著) 『千里山文学論集』(関西大学大学院文学研究科院生協議会) 第 32 号, pp.24-42. 1987 年 3 月.
5. 「O’Neill の *Strange Interlude*——英雄神話に憑かれたる者たち」(単著) 『金蘭短期大学研究誌』(金蘭短期大学) 第 18 号, pp.17-48. 1987 年 12 月.
6. 「劇構造と主題の整合性について——『ロレーヌのジョウン』を巡って」(単著) 『アメリカ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議) 第 4 号, pp.48-66. 1990 年 3 月.
7. 「ユージーン・オニールの《サイクル》——サイクル研究の基礎作業と文献の問題点——第 1 部」(単著) 『金蘭短期大学研究誌』(金蘭短期大学) 第 21 号, pp.69-98. 1990 年 12 月.
8. 「ユージーン・オニールの《サイクル》——サイクル研究の基礎作業と

- 文献の問題点——第2部」(単著)『金蘭短期大学研究誌』(金蘭短期大学)第22号, pp.75-122. 1991年12月.
9. 「ノーベル賞と『サイクル』——悲しき受賞者」(単著)『アメリカ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議)第5号, pp.64-79. 1991年8月.
  10. 「“The Life of Bessie Bowen” → “Hair of the Dog” ——サイクル草稿生成過程研究の試み——第1部」(単著)『金蘭短期大学研究誌』(金蘭短期大学)第24号, pp.1-44. 1993年12月.
  11. 「“The Life of Bessie Bowen” → “Hair of the Dog” ——サイクル草稿生成過程研究の試み——第2部」(単著)『金蘭短期大学研究誌』(金蘭短期大学)第25号, pp.17-66. 1994年12月.
  12. 「鏡の中のニール・サイモン——『ブロードウェイ・バウンド』というメタシアター」(単著)『アメリカ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議)第8号, pp.61-85. 1995年12月.
  13. 「*Capricorn*の女たち——オニールのサイクル, その二つの源流が交わる場所」(単著)『金蘭短期大学研究誌』(金蘭短期大学)第27号, pp.25-41. 1996年12月.
  14. “The Blueprint for the Cycle: Eugene O’Neill’s *The Calms of Capricorn*” (単著)『金蘭短期大学研究誌』(金蘭短期大学)第28号, pp.71-88. 1997年12月.
  15. 「デイヴィッド・マメット, 劇作理念と実践——『アメリカン・バップァロー』と『グレンギャリー・グレン・ロス』をめぐる」(単著)『アメリカ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議)第10号, pp.3-13. 1998年4月.
  16. 「酔いどれアイリッシュ——オニールの『夜への長い旅路』」(単著)『金蘭短期大学研究誌』(金蘭短期大学)第29号, pp.29-38. 1998年12月.
  17. 「オニールと女性——『娼婦→所有者』」(単著)『英米研究』(大阪外国語大学英米学会)第25号, pp.55-71. 2001年3月.
  18. 「笑う社会史——喜劇作家ジョージ・コフマンの肖像」(単著)『アメリ

- カ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議)第13号, pp.3-23. 2001年5月.
19. “Identity Politics of Asian American Drama: The Theatrical Landscape of Philip Kan Gotanda and Velina Hasu Houston”(単著)『英米研究』(大阪外国語大学英米学会)第26号, pp.55-75. 2002年3月.
  20. 「戦争花嫁たちの日系スモールタウン——記憶とコミュニオン」(単著)『英米研究』(大阪外国語大学英米学会)第28号, pp.49-64. 2004年3月.
  21. 「『エンジェルス・イン・アメリカ』の女性たち」(単著)『アメリカ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議)第16号, pp.43-62. 2004年10月.
  22. 「パラダイムの逆襲——『フェフとその友人たち』に見るポリフォニーの幻影」(単著)『アメリカ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議)第18号, pp.95-113. 2006年12月.
  23. 「クイアのポスト・ヴェトナム——ランフォード・ウィルソンの『七月五日』をめぐる」(単著)『アメリカ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議)第20号, pp.90-111. 2009年1月.
  24. 「クイア・カップルの亡霊と遺産——テネシー・ウィリアムズの *Cat on a Hot Tin Roof*」(単著)『立命館国際研究』(立命館大学国際関係学会)第21巻3号, pp.25-43. 2009年3月.
  25. 「グローヴァーズ・コーナースの地政学——『わが町』に見るサブリミナル・ポリティクス」(単著)『アメリカ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議)第21号, pp.3-32. 2010年4月.
  26. 「歴史・キャンノンのトランスフォーマー——劇作家 Suzan-Lori Parks の “Rep & Rev” + “Ref & Riff”」(単著)『EX ORIENTE』(大阪大学言語社会学会)第17巻, pp.1-28. 2010年7月.
  27. 「若き共和国アメリカを巡る人物表象と間テキスト性の舞台」(単著)『言語文化共同研究プロジェクト2010——アメリカ国家形成を巡るアメリカ演劇の政治文化研究——独立戦争から20世紀転換期』(貴志雅之

- 編, 大阪大学言語文化研究科), pp.1-18. 2011 年 5 月.
28. 「ナショナル・アイデンティティ創造を巡る初期アメリカ演劇の政治学——タイラー, ダンラップ, バーカーに見る新旧世界の間テクスト性」(単著)『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会)第 23 号, pp.3-26. 2012 年 3 月.
  29. 「エクリチュールと私生活を巡るウィリアムズ晩年の亡霊劇——亡霊・狂気・罪悪感」(単著)『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会)第 24 号, pp.23-42. 2013 年 3 月.
  30. 「アフリカ系アメリカ人共同体, 人種的遺産継承の政治学——『大洋の宝石』から『ラジオ・ゴルフ』へ」(単著)『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会)第 25 号, pp.21-42. 2014 年 3 月.
  31. 「テネシー・ウィリアムズ, 亡霊のドラマトゥルギー——記憶, 時間, エクリチュール」(単著)『英米研究』(大阪大学英米学会)第 38 号, pp.125-143. 2014 年 3 月.
  32. 「ユージーン・オニール, 反逆の演劇の軌跡——詩人, 所有者, 憑かれた者たちの弁証法」(単著)『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会)第 26 号, pp.1-18. 2015 年 3 月.
  33. 「黙殺される劇作と劇評——アメリカ演劇におけるポーのパフォーマンスとその評価」(単著)『ポー研究』(日本ポー学会)第 7 号, pp.49-68. 2015 年 3 月.
  34. 「子供の死とパラレル・ユニバース——デヴィッド・リンゼイ＝アベアーの『ラビット・ホール』をめぐる」(単著)『英米研究』(大阪大学英米学会)第 40 号, pp.17-39. 2016 年 3 月.
  35. 「解剖と越境——パークス劇におけるポストコロニアル・スペクタクルとしての身体」(単著)『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会)第 28・29 号, pp.68-87. 2018 年 3 月.
  36. 「ユージーン・オニール, 憐憫のリリシズム——『夜への長い旅路』を巡って」(単著)『英米研究』(大阪大学英米学会)第 42 号, pp.93-109.

2018年3月.

37. 「覚醒のヴィジョン——August Wilson の「20 世紀サイクル」における「骨の町」／「骨の人々」」(単著)『EX ORIENTE』(大阪大学言語社会学会誌) 第 26 号, pp.49-70. 2019 年 3 月.
38. 「ヘンリー・ジェイムズ, 劇作の到達点とその真価——『客間』と『抗議』をめぐって」(単著)『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会) 30 号, pp.28-46. 2019 年 5 月.
39. 「ポストヒューマン・エコロジーに向けて——『海の風景』における種間遭遇」(単著)『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会) 31 号, pp.1-14. 2020 年 5 月.

#### 編注

1. *The Girl Who Absorbed A Newspaper*. Roger Pulvers 著／貴志雅之(編注), 研究社出版, 1992 年 9 月 20 日.

#### 書評・論評

1. 書評「内野儀著『メロドラマからパフォーマンスへ——20 世紀アメリカ演劇論』」(単著)『アメリカ文学研究』(日本アメリカ文学会) 第 39 号, pp.116-121. 2003 年 2 月.
2. 書評「長田光展著『アメリカ演劇の「再生」』」(単著)『中央評論』(中央大学出版), 第 57 巻 1 号, pp.124-125. 2005 年 4 月.
3. 短評「清水純子著『様々なる欲望——フロイト理論で読むユージン・オニール』」(単著)『アメリカ文学研究』(日本アメリカ文学会) 第 48 号, pp.68-69. 2012 年 3 月.
4. 書評「植木照代監修・山本秀行／村山瑞穂編『アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために』」(単著)『英文学研究』(日本英文学会) 第 89 巻, pp.140-145. 2012 年 12 月.
5. 論評「会員が参画する学会の未来に向けて」(単著)『アメリカ文学研

究』創刊 50 周年記念フォーラム「日本におけるアメリカ文学研究——その過去・現在・未来」『アメリカ文学研究』第 50 号（日本アメリカ文学学会），pp.30-31. 2014 年 3 月.

6. 書評「アフリカ系アメリカ人の「サイクル」——ヒル地区の地政学 桑原文子『オーガスト・ウィルソン——アメリカの黒人シェイクスピア』白水社, 2014. xxvi + 490 pp.」（単著）『英文学研究 支部統合号』（日本英文学会）第 9 巻, pp.213-16. 2017 年 1 月.

#### 解説

1. 海外新潮「新千年期幕開けの英語圏演劇」『英語青年』（研究社），2003 年 4 月号，第 149 巻 1 号，p.40.
2. 海外新潮「Suzan-Lori Parks の新作, *Fucking A*」『英語青年』（研究社），2003 年 6 月号，第 149 巻 3 号，p.37.
3. 海外新潮「演劇史を読み直す Queer Readings」『英語青年』（研究社），2003 年 8 月号，第 149 巻 5 号，p.36.
4. 海外新潮「手話ミュージカルへの変身：新生 *Big River*」『英語青年』（研究社），2003 年 10 月号，第 149 巻 7 号，p.37.
5. 海外新潮「Errol Hill の遺産：決定版『アフリカ系アメリカ演劇史』」『英語青年』（研究社），2003 年 12 月号，第 149 巻 9 号，p.36.
6. 海外新潮「Nilo Cruz のピューリッツァー受賞作：*Anna in the Tropics*」『英語青年』（研究社），2004 年 2 月号，第 149 巻 11 号，p.36.
7. 「原作者ベラスコの人と作品」『ブッチーニ 西部の娘』（財団法人新国立劇場運営財団），pp.16-18. 2007 年 4 月.

#### その他の刊行物

1. 「新たな副専攻英語教育に向けて」『新しい副専攻英語教育（自己点検・評価委員会の答申に答えて）』（大阪外国語大学），pp.16-26. 2000 年 3 月.

2. 「新たな副専攻英語教育に向けて II：英語演劇による副専攻英語演習の実践報告」『大阪外大全体の効果的な英語教育（平成 12 年度大阪外国語大学特別教育学内研究経費（学長裁量）研究成果報告書）』（大阪外国語大学外国語学部），pp.15-27. 2001 年 3 月.

#### 研究発表

1. “On Mark Twain’s ‘The Mysterious Stranger’”（単），第 4 回大阪工業大学人文語学研究会，1982 年 10 月 6 日，於：大阪工業大学.
2. “On the Second Language Learner’s Difficulty in Using Infinitival Modifiers”（単），第 8 回 JALT（全国語学教師協会）国際大会，1982 年 10 月 11 日，於：帝塚山学院大学.
3. 「ヘミングウェイの“A Clean, Well-lighted Place”について」（単），関西大学大学院英米文学研究会 昭和 59 年度第 2 回研究発表会，1984 年 11 月 11 日，於：関西大学.
4. 「Identity の模索——*Mourning Becomes Electra* における『死』への Initiation」（単），日本アメリカ文学会第 24 回全国大会，1985 年 10 月 19 日，於：三重大学
5. 「O’Neill 劇の原型を求めて——*Beyond the Horizon* を読む」（シンポジウム講師）（単），現代英語文学研究会第 11 回夏期シンポジウム，1986 年 8 月 25-26 日，於：滋賀県伊香郡西浅井町営国民宿舎つづらお荘.
6. 「O’Neill の *Strange Interlude*——英雄神話に憑かれたる者たち」（単），日本アメリカ文学会第 25 回全国大会，1986 年 10 月 10 日，於：北星学園大学.
7. 「劇構造と主題の整合性について——*Joan of Lorraine* をめぐって」（単），全国アメリカ演劇研究者会議第 4 回大会，1987 年 6 月 20 日，於：法政三浦荘.
8. 「村上春樹，謎学の旅，そしてオニールをめぐる冒険へ」（単），第 6 回金蘭短期大学英語英文学研究会，1989 年 6 月 28 日，於：金蘭短期大

学.

9. 「公開授業——演じる講読：学生の主体的創作活動の現場から」(単), 大阪私立短期大学英文研修会, 1989年12月2日, 於: 金蘭短期大学.
10. 「鏡の中のニール・サイモン——『ブロードウェイ・バウンド』というメタシアター」(シンポジウム講師)(単), 全国アメリカ演劇研究者会議第8回大会シンポジウム「ニール・サイモンの B. B. 三部作を読む」, 1991年7月6日, 於: 獨協学園新甲子セミナーハウス.
11. 「『サイクル』を巡るオニール研究——第1次資料を追い求めて」(単), 第18回フォーラム716(金蘭短期大学), 1992年11月4日, 於: 金蘭短期大学.
12. 「大学教育における演劇の活用体験とアメリカにおける演劇研究状況」(単), アメリカ演劇研究会(日米文科系学術交流主催), 1993年3月19日, 於: 千里ライフサイエンスセンター.
13. 「笑う社会史——喜劇作家ジョージ・コフマンの肖像」(シンポジウム講師)(単), 全国アメリカ演劇研究者会議第10回大会シンポジウム「モス・ハートとの共作を中心にコフマン喜劇を検討する」, 1993年7月3日, 於: 法政大学富士セミナーハウス.
14. 「草稿研究の必然性と意義——ユージーン・オニールの『サイクル』を巡って」(単), 第33回メビウス月例研究会(京都外国語大学), 1993年12月11日, 於: 京都外国語大学国際交流会館.
15. 「*Capricorn* の女たち——オニールのサイクル, その二つの源流が交わるところ」(単), 日本アメリカ文学会関西支部1995年度1月例会, 1996年1月20日, 於: 甲南大学.
16. 「サイクルの青写真——*The Calms of Capricorn* 論考」(単), 日本英文学会第68回大会, 1996年5月25日, 於: 立正大学大崎校舎
17. 「デイヴィッド・マメット, 劇作理念と実践——『アメリカン・バップァロー』と『グレンギャリー・グレン・ロス』をめぐる」(シンポジウム講師)(単), 全国アメリカ演劇研究者会議第13回大会シンポジウム

- ム「*American Buffalo* と *Glengarry Glen Ross* をどう捉えるか」, 1996 年 6 月 29 日, 於: 国際交流セミナーハウス皇子が丘荘.
18. 「『酔いどれ』アメリカ文学——オニールの場合」(シンポジウム講師)(単), 第 40 回日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム「『酔いどれ』アメリカ文学——アルコールと 20 年代作家」, 1996 年 12 月 7 日, 於: 桃山学院大学和泉新キャンパス.
  19. “O’Neill and Alcohol”(単), 第 23 回金蘭短期大学英語英文学研究会, 1997 年 12 月 10 日, 於: 金蘭短期大学.
  20. 「私的生活の作品化は何をもたらすか——晩年の Williams を考える」(シンポジウム講師)(単), 1998 年 6 月 26 日, 全国アメリカ演劇研究者会議第 15 回大会, 於: ホテル青海 (三重県度会郡二見町神前海岸).
  21. 「オニールとアルコール」(シンポジウム講師)(単), 大阪外国語大学世界文学研究会第 8 回例会, 1999 年 7 月 1 日, 於: 大阪外国語大学記念会館.
  22. 「オニールと女性——娼婦→所有者」(シンポジウム講師)(単), 全国アメリカ演劇研究者会議第 17 回大会シンポジウム「オニールと女性」, 2000 年 6 月 25 日, 於: サンハイツホテル名古屋.
  23. 「テネシー・ウィリアムズとニューオーリンズ」(シンポジウム講師)(単), 第 44 回日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム「アメリカ文学とニューオーリンズ」, 2000 年 12 月 16 日, 於: 関西大学.
  24. “Identity Politics of Asian American Drama: The Theatrical Landscape of Philip Kan Gotanda and Velina Hasu Houston”(単), CRUCIBLE OF CULTURES: Anglophone Drama at the Dawn of a New Millennium (ブリュッセル大学主催「文化のるつぼ——新千年期幕開けの英語圏演劇」国際会議), 2001 年 5 月 19 日, 於: Best Western County House Hotel (ベルギー, ブリュッセル)
  25. 「グラスペルに見る反逆者／創造者としてのフェミニスト——エクリチュール・フェミニンは可能か」(シンポジウム講師)(単), 全国アメリカ

- カ演劇研究者会議第 19 回大会シンポジウム『『劇作家』としての Susan Glaspell』, 2002 年 6 月 30 日, 於: キャンパスプラザ京都.
26. 「*Angels in America* の女性たち」(シンポジウム講師)(単), 全国アメリカ演劇研究者会議第 20 回大会シンポジウム「*Angels in America: A Gay Fantasia on National Themes. (Part One: Millennium Approaches. Part Two: Perestroika)*」を読む, 2003 年 6 月 29 日, 於: 東京弥生会館.
  27. 「帝国支配の記号学——舞台の上の銃と他者」(シンポジウム講師)(単), 日本アメリカ文学会第 43 回全国大会シンポジウム「神話のスパイラル——アメリカ文学と銃」, 2004 年 10 月 17 日, 於: 甲南大学.
  28. “Semiotics of Empire Domination: Guns and the Other on the American Stage” (シンポジウム講師)(単), ATHS (Association for Theatre in Higher Education)’s 20th Anniversary Conference (米国高等教育演劇協会第 20 回記念大会の ATDS [The American Theatre and Drama Society: アメリカ演劇学会] 主催パネル “Empire vs. Nation in American Theatre History” [アメリカ演劇史における帝国対国家]), 2006 年 8 月 4 日, 於: Palmer House Hilton Hotel (米国, シカゴ)
  29. 「アメリカ演劇の政治学——冷戦・クイア・ポスト冷戦」(シンポジウム講師)(単), 第 51 回日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム「20 世紀アメリカ文学の政治学」, 2007 年 12 月 8 日, 於: 京大会館 210 号室.
  30. 「Grover’s Corners の地政学——*Our Town* が持つサブリミナル・メッセージ」(シンポジウム講師)(単), 全国アメリカ演劇研究者会議第 25 回大会シンポジウム「*Our Town* を読み解く——歴史と普遍, 固体と永遠」, 2008 年 6 月 29 日, 於: エスカル横浜.
  31. 「ウィリアムズのアメリカ——暴力, 病, ダブル・ヴィジョン」, (シンポジウム講師)(単), 日本英文学会第 81 回大会シンポジウム「テネシー・ウィリアムズのアメリカ」, 2009 年 5 月 31 日, 於: 東京大学駒場キャンパス.

32. 「歴史・キャンノンのトランスフォーマー——劇作家 Suzan-Lori Parks の“Rep & Rev” + “Ref & Riff”」(シンポジウム講師)(単), 大阪大学言語社会学会 2009 年度研究大会シンポジア「世界文学のフロンティア」, 2009 月 30 日, 於: 大阪大学箕面キャンパス.
33. 「若き共和国アメリカを巡る人物表象と間テキスト性の舞台」(シンポジウム講師)(単), 全国アメリカ演劇研究者会議第 27 回大会シンポジウム「独立戦争から 19 世紀末に至るアメリカ演劇」, 2010 年 7 月 25 日, 於: 名古屋丸の内東急イン.
34. 「エクリチュールと私生活を巡るウィリアムズ晩年の亡霊劇——亡霊・狂気・罪悪感」(シンポジウム講師)(単), 日本アメリカ演劇学会第 1 回大会シンポジウム「テネシー・ウィリアムズ研究の現在」, 2011 年 7 月 3 日, 於: 浅草ビューホテル.
35. 「国家的陰謀への反逆——テネシー・ウィリアムズ, SF, 黙示録的政治劇」(単), 日本アメリカ文学会関西支部 2011 年度 9 月例会, 2011 年 9 月 10 日, 於: 京都産業大学.
36. 「アフリカ系アメリカ人共同体, 人種的遺産継承の政治学——*Gem of the Ocean* か *Radio Golf* へ」(シンポジウム講師)(単), 日本アメリカ演劇学会第 2 回大会シンポジウム「オーガスト・ウィルソンの「20 世紀サイクル」とその遺産」, 2012 年 7 月 1 日, 於: グリーンヒルホテル 神戸.
37. 「テネシー・ウィリアムズ, 亡霊のドラマトゥルギー——記憶, 時間, エクリチュール」(フォーラム講師)(単), 日本アメリカ文学会関西支部第 56 回大会フォーラム「アメリカ文学と亡霊」, 2012 年 12 月 1 日, 於: 近畿大学会館.
38. 「ユーージン・オニール, 反逆の演劇の軌跡——詩人, 所有者, 憑かれた者たちの弁証法」(シンポジウム講師)(単), 日本アメリカ演劇学会第 3 回大会シンポジウム「オニールのアメリカ」, 2013 年 9 月 29 日, 於: ザ・ホテル ベルグランデ.

39. 「黙殺される劇作と劇評——アメリカ演劇におけるポーのパフォーマンスとその価」(シンポジウム講師)(単), 日本ポー学会第7回年次大会シンポジウム「ポーとアメリカン・シアター」, 2014年9月13日, 於: 慶應義塾大学三田キャンパス.
40. 「子供の死とパラレル・ユニバース——David Lindsay-Abaire の *Rabbit Hole* をめぐって」(シンポジウム講師)(単), 平成26年度中・四国アメリカ文学会冬季大会シンポジウム「アメリカン文学における幸せの追求」, 2014年12月1日, 於: 県立広島大学.
41. 「タブーを犯した成功者——*The Goat, or Who Is Sylvia?* における幸福の追求と破壊」(シンポジウム講師)(単), 日本アメリカ文会第54回全国大会シンポジウム「アメリカン文学における幸福の追求とその行方」, 2015年10月11日, 於: 京都大学.
42. 講演「アメリカ演劇の政治学——支配, 歴史, 他者」(単), 第4回関西大学英米文学英語学会年次大会, 於: 関西大学.
43. 「悲しみと痛み, 憐憫のリリシズム——夜への長い旅路の果てに」(フォーラム講師)(単), 第60回日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム「不寛容な時代の愛——アメリカ文学における抒情の系譜」, 2016年12月3日, 於: 京都学園大学 京都太秦キャンパス.
44. 「解剖と越境——Parks 劇におけるポストコロニアル・スペクタクルとしての身体」(シンポジウム講師)(単), 日本英文学会第89回大会シンポジウム「ポスト・コロニアリズム以後の演劇」2017年5月21日, 於: 静岡大学静岡キャンパス.
45. 「ヘンリー・ジェイムズ, 劇作の到達点とその真価——*The Saloon* と *The Outcry* をめぐって」(シンポジウム講師)(単), 日本アメリカ演劇学会第7回大会シンポジウム「劇作する小説家ヘンリー・ジェイムズ——小説と演劇のインターフェイス」, 2017年8月30日, 於: 広島経済大学立町キャンパス.
46. 「ポストヒューマン・エコロジーに向けて——*Seascape* における種間遭

遇」(シンポジウム講師)(単), 日本アメリカ演劇学会第8回大会シンポジウム「Edward Albee の詩学」, 2018年8月26日, 於: HOTEL ルブラ王山.

47. 「覚醒のヴィジョン——August Wilson の「20世紀サイクル」における「骨の町」/「骨の人々」(招待発表)(単), 日本英文学会関西支部第13回大会, 2018年12月8日, 於: 神戸女学院.
48. 「心の病, その脱スティグマ化に向けて——21世紀アメリカン・ミュージカルの一つの方向性」(シンポジウム講師)(単), 2019年8月25日, 日本アメリカ演劇学会第9回大会シンポジウム「ミュージカル研究」, 於: クロスウェーブ梅田.
49. 「アメリカ演劇, 疫病を生き抜く政治学」(フォーラム講師), (単), 第64回日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム「アメリカ演劇における病, ディストピア, サバイバル」, 2020年12月5日, ZOOM 開催.

#### 科学研究助成費獲得実績

1. 基盤研究 C「現代アメリカ文学における身体意識の変容とメディアとの関係」研究課題/領域番号: 15520178 研究期間: 2003~2006 代表者: 石割隆喜
2. 基盤研究 C「アメリカ文学における銃の表象とアメリカの神話の関係に関する研究」研究課題/領域番号: 17520167 研究期間: 2005~2008 代表者: 渡邊克昭
3. 基盤研究 C「現代アメリカ演劇における歴史表象と文化的アイデンティティの関係性」研究課題/領域番号: 18520204 研究期間: 2006~2009 代表者: 貴志雅之
4. 基盤研究 C「20-21世紀アメリカ演劇の政治学研究——1900年からポスト9.11」研究課題/領域番号: 24520284 研究期間: 2012~2017 代表者: 貴志雅之